

新連載 行政区・ここが知りたい！

矢板市には六十七の行政区があり、それぞれの区で、いろいろな活動をしています。その活動の主役はやっぱりそこに暮らしている人。あまり知られることなくとも、自分たちの足下で市民力を発揮しています。

今号からスタートするこのコーナーでは、かわら版記者が注目した各行政区独自のとりくみを紹介します。

中行政区

◆四月十九日、中行政区では、御前原城跡公園で区民ふれあい祭りを行いました。シャープの工場に隣接するこの公園は近年、桜の名所として知られるようになってきました。また園内のお堂には有名な「はしか地蔵」が祭られていて、祭り当日は氏子による縁日も行われ、多くの人でにぎわいました。

◆地元ちゅうりっぷ保育園の園児たちによる和太鼓演奏のほかに、よさこいソーランや剣舞、各種団体による模擬店や緋毛氈（ひもうせん）の上での野だてなど、地元の市民力を総結集してのお祭りになりました。



一芸の数々



区民の一芸を生かした地域づくり

◆会場となったこの公園ですが、以前は昼間でも薄暗く人影もまばらでした。しかし今では、毎朝グラウンドゴルフを楽しむ人たちの声が聞こえ、きれいで明るくなった園内を散策する人の姿も多く見受けられ、桜の季節には花見客でにぎわうようになりました。

◆しかし、ここに至るまでにはさまざまな苦労が…。八年ほど前から、まずは混み合った桜の木を間伐。荒れて雑草だらけの土地をならしてグラウンドゴルフのコースに整備。千本以上のツツジ、百本ほどのアジサイの植栽や、城跡の土手の草刈り。それらの努力が、年を追うごとに目に見える成果として現れてきました。

◆中行政区は市内で一番戸数が多く、多様な人が住んでいます。その多様性を受け入れ、交流する場として、ふれあい祭りがあります。昔からの住民である氏子の人たちが守るはしか地蔵縁日と行政区が行うふれあい祭りを共催で行うことはそれを象徴するイベントです。そのほかにも、区民の人たちの一芸を披露する新春芸能発表会と作品展。交流を目的とした区民旅行なども実施されています。

◆「これらのイベントを通して区民が交流していくことで、新しく地域に暮らすようになつた人が行政の活動に参加するきっかけになつてくれれば…」と区長の八木沢健一さんは語ります。



きれいになった公園は桜の名所に

東乙畑行政区 西乙畑行政区

矢板市最南端、荒川を挟んでさらに市に隣接する乙畑地区。乙畑には、東乙畑行政区（齊藤貞夫区長 百四戸）と西乙畑行政区（永井裕区長 九十四戸）のふたつの自治会があるが、公民館は共同でひとつ。こうした形態は市内でも珍しい。もうひとつ珍しいのが、この乙畑公民館（齊藤貞夫館長）が年四回発行する広報紙「かまふち」。

■広報紙の名称「かまふち」は、地域に伝わる伝説に由来します。「矢板市史」にも載っていますが、その昔、荒川に釜が淵という深いふちがあり、恐ろしい大蛇が住んでいたそうです。そこで村人たちは、北側の小高い丘の上に熊野権現を祭り、悪魔払いを祈願したところ災いも収まった、という話です。この伝説は、乙畑を象徴するもので、現在、釜が淵



区民参加で作る乙畑公民館だより「かまふち」

に当たる場所は乙畑の最初の地番です。ただ、いつのころからか地元では釜が淵を「かまふち」と呼ぶようになりました。そのような由来にちなんで広報紙の名称にしたわけです。

■広報紙は平成十四年、東西ふたつの行政区に住む住民の誰もが、地域内の動きを知り、皆が協力し合い地域が盛り立てていくことを目的に創刊しました。以来、毎年四回二月、五月、八月、十一月に発行しています。当初は、A4版四ページでスタートしましたが、今は六ページに増やしました。発行要領を決めて、書式を統一し、写真は大きくして見やすく分かりやすい広報紙づくりに取り組んでいます。編集委員は、公民館長が委嘱した男女七、八人で構成、切り張りして原紙を作り、片岡公民館で印刷しています。発行部数二百五十部、全戸に配るほか矢板公民館などにも少し置いてあります。

■大変なのはやはり原稿を集めることと写真をしっかりと撮ることですね。編集委員は、地域内の「良いニュース」探しに努めています。「かまふち」のニュースが話題になったり、「行事予定を冷蔵庫に張って見えますよ」などの声を耳にするとうれしいですね。蓄積されれば地元の歴史文書になります。住民の皆さんの協力で発行を続けていきたいですね。（談）



ぶようになりました。そのような由来にちなんで広報紙の名称にしたわけです。